2回戦
11年春季リーグ
第4週・4月27日
0勝2敗

駒大 1―7 東洋大

投手陣総動員も完敗

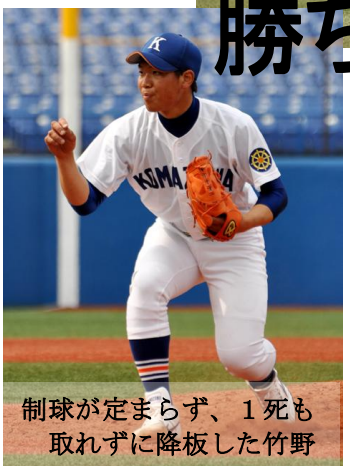
勝ち点落とす

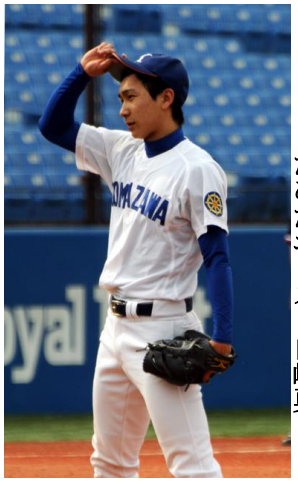
5回、追加点を与えた小倉

【下】2回、先制点を許した先発・井口と喜ぶ東洋大ベンチ

【上】7回、押し出しの四球を与えた村上

7回に2四球を出した木村


制球が定まらず、1死も取れずに降板した竹野


【左】8回、死球で走者をためたエース・白崎勇

【左】8回、2死一、二塁の好機で空振り三振に倒れた山下

1戦目を落とし、優勝のためには負けられない2戦目。前日のスタメンから5人を入れ替え臨んだが、相手右腕を前に2安打に抑えられた。投手陣も先発・井口拓皓(経3)が3回で降板すると、後続の投手も打たれ7失点。連敗で勝ち点を落とし、首位陥落を喫した。

駒　大	100	000	000	1
東洋大	022	010	11×	7

[駒　大]	打安点
⑧小　林	410
⑨中　谷	110
PH山　下	100
9嘉数駿	000
⑥　岡	300
⑤白崎浩	301
⑦柴　田	300
PH奥　野	100
DH福　山	200
②戸　柱	300
③下　川	200
④砂　川	200
	計 25 2 1

▽二塁打＝小林

	回	打安責
●井　口	3	15 6 4
小　倉	2	9 3 1
竹　野	0/3	3 1 0
木　村	1 2/3	7 1 1
村　上	1/3	2 0 0
白崎勇	1	7 2 1

初戦を落とし「ガラっと打線を変えたい」と、小椋正博監督が発言。その言葉通り、小林勇登(経3)を10年秋季・1部2部入替戦以来の中堅で起用。さらに、1年生の福山亮(経1)、下川和弥(市1)、砂川哲平(法1)を抜擢するなど、前日のスタメンから5人を入れ替えた。

その打線がいきなり結果を出した。初回、小林の左越二塁打を契機に1死一、三塁の好機。ここで、4番・白崎浩之(法3)が右犠飛を放ち、幸先よく先制した。

しかし、それ以降は機能しなかった。相手右腕のスリークォーターから投じられる直球とキレのあるスライダーに苦戦。8回に連続四球で一、二塁とするが、藤岡貴裕(4年＝桐生一)が救援に入り無得点。わずか2安打と、凡打の山を築いた。

苦しむ打線と同様に投手陣も振るわなかった。先発・井口は先制した直後の2回に2死二塁の危機で、連続適時打を浴び逆転。3回には2点本塁打を右翼席へ運ばれ、先発の役割を果たせなかった。

その後も小倉元平(営4)や、前日に先発した白崎勇気(営4)などが登板。ベンチ入りした6人全員がマウンドに上がるが、相手打線の前に被安打13、四死球7、7失点と結果を残せなかった。

主将・岡将吾(法4)は「優勝の可能性がまだ残っているので、国学大戦も諦めずに思い切りやりたい」と前を向いた。

今季初めて勝ち点を落とし、首位の座を東洋大に明け渡してしまった。それでも、わずかに残されている1部優勝の可能性を信じ、次の国学大戦へと挑む。

写真＝山田遼太郎、堀江あゆみ、野木聡介
文＝丸山翔太